



鳴鹿小学校

校長室だより

第9号 令和5年9月22日(金)



全国学力・学習状況調査結果と分析

6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果の概要についてお知らせします。

この調査結果は、子ども達の学力の一部ではありますが、実態を把握できるものであり、よりわかる授業への改善につなげるよい資料と考えています。

本校では、今回の調査結果を分析し、下記のように今後の学習指導の充実や学習状況の改善に生かしてまいります。

表の見方 ※記号：県や全国との比較

【上回っている(+3P以上)◎、だいたい同じ(±3P)○、下回っている(-3P以下)△】

<国語>

<結果>

◎学習指導要領の内容の思考力・判断力・表現力 A(話すこと・聞くこと)は、県比、全国比を共に上回った。

○評価の観点別からみた平均正答率では、思考力・判断力・表現力は、県比、全国比で上回った。

○問題形式別に正答率を見てみると、選択式に

ついては県比、全国比を上回ったが、短答式・記述式については全国比は上回ったが、県比は下回った。

<課題>

△学力調査のような資料と自分の意見を関連させながらの条件作文が力不足である。

△敬語に関する知識、特に謙譲語が弱い。うかがうなどの特別な言い方が身についていない。

<改善の方策>

①朝の活動や国語の時間を使って、「AとBだったら、どちらに賛成か」や新聞記事について事実と意見を2段落構成で書くなどの条件作文に取り組んでいる。書くことに抵抗が少なくなってきているので、教科書教材を使って、資料と自分の意見を関連させながらの条件作文に、低学年のうちから、学校全体で取り組んでいく。

②読解力の育成については、学調の問題傾向を分析した上で、どのような力を今後つけていくか、説明的文章の学習方法はどうかを全校で共有し、6年間を見通した指導をしていく。

国語			県	全国
全体			○	◎
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	○	○
		情報の扱い方に関する事項	○	○
	思考力、判断力、表現力等	A話すこと・聞くこと	◎	◎
B書くこと		△	△	
C読むこと		△	△	
評価の観点	知識・技能	○	○	
	思考・判断・表現	○	◎	
問題形式	選択式	○	◎	
	短答式	○	○	
	記述式	△	○	

<算数>

<結果>

- 学習指導要領の領域A
数と計算、B図形、C
変化と関係について
は、共に県比、全国比
を下回った。
Dデータの活用につい
ては、全国比は上回っ
たが、県比は下回った。
○評価の観点別からみた

算 数		県	全国
全 体		△	○
学習指導要領の領域	A 数と計算	△	○
	B 図形	○	○
	C 変化と関係	△	△
	D データの活用	○	◎
評価の観点	知識・技能	○	○
	思考・判断・表現	△	△
問題形式	選択式	△	△
	短答式	○	◎
	記述式	△	△

- 正答率では、知識・技能は、全国比は上回ったが県比は下回った。思考・判断・表現は県比、全国比共に下回った。
○問題形式別に正答率を見ると、短答式は県比、全国比共に上回った。しかし、選択式・記述式は共に県比、全国比を下回った。

<課題>

- △学力調査の問題のような日常場面での数学的な見方考え方を発揮し、これまで学習してきた解法を活用する力が弱い。また、問題を理解する力が弱い。
△図形や割合・筆算など、性質や定義・解法の意味を基に問題を解く力が弱い。

<改善の方策>

- ①割合や図形などについては、教科書の問題がどの児童も解けるように問題の解き方を工夫している。また、説明問題についても、教科書の例文などを基に自分の考えを書くことについて取り組んでいる。問題文を図式化する、操作活動を充実させるなど、算数以外の教科でも総合的な読解力を高めていく。
②性質や定義などを各学年でしっかりと押さえた上で、定義と図形を照らし合わせるなどの指導をしていく。

<学習状況調査>

- 「自分にはよいところがある」に肯定的に答えた児童が100%と自己肯定感が高い。
○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、地域への行事に参加する児童が多く、郷土に対する思いも強い。
△「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」で否定的な回答をしている児童がいる。
△学習に関する興味・関心の領域で、特に算数について、苦手意識を持っている児童が多いことがうかがえる。
△「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」は、1時間より少ない児童が多く、あまり読書の習慣がない。

学力調査と学習状況の回答結果からわかった成果と課題は、今後、全学年における指導に生かしていきたいと思っております。すでにお配りしている「家庭学習の手引き」をご家庭でも参考にいただき、基本的な学習習慣が定着するよう学校と家庭が協働していきましょう。